

沖縄西表祖納方言研究のためのおぼえがき

— 名詞の格語形ととりたてを中心に —

金田 章宏

0. はじめに

この報告は1997年1月中旬から下旬にかけて沖縄県八重山郡竹富町祖納(スネー。西表島北西部。租納とも表記)でおこなった聞きとり調査のみにもとづくものである。インフォマントは同地区在住の那根弘氏(M. 44(1911)年生れ)である。この地区の音声・音韻に関する報告には那根氏をインフォマントのひとりとした大野1988、久野1988ほかがあるが、石垣方言などともかなり異なるとされる文法事項に関してはほとんど報告がない。この調査も白紙状態からのものであり、かつ特定の目的に限定した調査ではなかったため、資料の質にはかなりのバラつきがある。

こうしたかぎられた資料からの分析であるため、十分な記述ができないことはいうまでもないが、可能なかぎり問題点等をあきらかにすることで、今後の調査のためのおぼえがきとしたい。

本稿での表記について

大野1988、久野1988がすでにのべているところであるが、この方言には標準語にみられる狭い母音の無声化だけでなく、広い母音にも、さらにはrやn、mといった有声子音にも無声化がみられる。強調辞ドウのdも音環境によってtに無声化する。まだこれらを厳密に表記しわけられる段階にはないが、できるだけ精密な表記を心がけた。ただし、入力・表記を容易にするために、無声化する音のまえに半角の"! "をいれるという(一般的ではない)方法をとった。

p!a!ri:.(走れ。)、t!u!no:(卵)、k!a!ma(そこ、あそこ)、as!i!tu(そのようにゾ)

あきらかな喉頭閉鎖音は半角の"? "であらわした。これも必要な箇所のすべてにいれられているわけではない。"? "はしたがって、たずね文の文末には使用しないものとする。

maroq?maro siru(丸い〜)、?a!c!iko?ac!i!ko(暖かく)、ta?haN(だれでも、だれも)

母音の鼻音化には半角の"~"を使用した。

p!~ig~i(ひげ)、apad~a:(はだか)、buq!c!j~a:(おじ)、z~a:~rj~a(どこ?)、
c!ikiNc!ikw~a:(月、三日月)、kaN!j~a!:(影。Nはこの単語に固有の成節子音nj)

鼻音はちいさいものをあらわす名詞にも指小辞的にあらわれる。

si:gw~a:(小魚<スク)、gu:~jgw~a(小鳥)、miN!huzirj~a:(小指<みみほじり)

高低アクセントも意味の区別に使用されている。これについては、"] "と" ["とを使用して下

降と上昇をしめした。しかし、これも区別すべきすべての箇所はこの記号をいれているわけではないし、イントネーションのレベルでいれているところもすくなくともあると思われる。

ʃp!as!i(橋)、「pas!i(箸)、「hwjaN.(食べた。)、「hwja」N.(降った。)

1. 格形式のいくつかについて

格形式のうち、ハダカ格、ヌ格をとりあげる。ほかにヲ格に相当するバ格、ニ格やへ格に相当するナ格とツティ格、カラ格に相当するラ格(ハラ格)などがあるが、別稿にゆずる。なお、この方言にはかたちのうえでガ格に対応する格はみられないようである。

1.1 ハダカ格

ハダカ格名詞はもっぱら主語(主節・従属節とも)と直接補語に使用され、主語と直接補語ももっぱらハダカ格またはそのドウ強調形であらわされる。人称代名詞ではそのまま規定語にもなる。また、ハダカの名詞がそのまま、または終助辞のついたかたちで述語として使用される。

1.1.1 主語

主節の主語に使用され、動作や変化の主体(はじめの4例)、存在の主体(つぎの2例)、属性や状態のもちぬし(そのつぎの2例)をあらわす。また、名詞述語文の主語(さいごの1例)になる。

ウラ トウイ。ura tui.¹ あなたが(包丁を)研げ。

ウレ オーリヤン。ure o:rjaN. あの人がおいでになった。

アミ フンドー。ami huNdo:.² 雨が降るよ。

ピ ケーヒヤン。p!i ke:hjaN. 火が消えた。

グーグー ブソー。gu:gu: buso:.³ ニワトリがいるよ。

オンギ アンナー。oNgi aNna:.⁴ 扇、あるかい。

ヤマング ウムツサダル。jamaNgu umuqsadaru. いたずらはおもしろい。

キョーヌ カジ ツーサダル。kjo:nu kazi cu:sadaru. きょうの風は強い。

フシリ クリユー。h!us!iri klu!riju:.⁵ 薬はこれです。(目上に)

従属節(はじめの2例)や規定語節(あとの1例)の主語にも使用される。

ウヌ ピトウ ンギッスヌ バー ンゲン。unu p!itu Ngiqsunu³ ba: NguN. あの人は行くけど、わたしは行かない。

バー ティー アギツカラ ba: 「ti:」 agiq[ka]ra⁴ わたしが手をあげたら、

クヌ トウケイメ ダイ ヤツサル ムヌドウ ニサル。k!unu t!ukeime dai jaqsaru

munudu nisaru. この時計は値段が安そうだ(安いものゾ似ている)。

1. 1. 2 直接補語⁵

ウリ ホッカラ ビース。uri hoqkara bi:su. あれを食べたらあたるよ。

ウヌ ピトゥ クリ ヌミディンドー。unu p!itu k!u!ri nu[mi]diN[do:]. あの人がこれを飲めっていついたよ。

チミ キシャンナ。c!imi] k!i[sjaN]na. 爪を切ったかい。

ウウ ムタチキ。uwa mutac!iki. 豚を解体しろ。

ムヌ ウツツカラ バリルンドー。munu uq[cuqka]ra ba[ri]ruN[do:]. ものを落としたら割れるよ。

アシル イユ シツァン。asiru iju s!icaN. そういう魚は釣らないよ。

ツソッシル カビ ムティ クー。s!usoqsiru kabi muti ku:. 白い紙を持ってこい。

1. 1. 3 規定語

人称代名詞のみにみられる用法で、ハダカ格がそのまま規定語として使用される。

バー シザ ba: si[za] わたしの兄(シザは呼びかけには使用せず)

バー ムヌ ウラ ムヌッカ タカッチャダル。ba: munu ura munuqka t!akaqjadaru. わたしのものはあなたのものよりたくさんだ。

バー カーリ ヌミヒュンナー。ba: ka:ri numihjuNna:. わたしのかわりに飲んでくれるかい。

1. 1. 4 状況語

ハダカ格が時間の状況語として使用されることがある。

ネハ クー neha ku:. 今晚来て。

キヌ タハン シツァンダ。k!inu ta?haN s!icaNda. きのうはだれも釣らなかった。

バー ピンピン シトゥンタ パイサ ウキス。ba: piNpiN s!ituNta paisa ukisu. わたしは毎日朝早く起きる。

キューヌ マル キース ハチドー。kju:nu maru ki:]su h!ac!ido:. きょうあたり来ると思うよ。

~~トゥリール バシヨ~~ イハ。t!u!ri:ru ba:jo: iha. (波が)静かなときに行こう。

1. 1. 5 述語

名詞が述語になるばあい、たずね文や敬語文ではコピュラ助辞が使用されるようだが、それ以外ではハダカ名詞がそのまま、あるいは終助辞のついたかたちで使用されるようである。

ムール ビドウン。mu:ru biduN. 全員男だ。

ムコー クヌ ピトウ。muko: k!unu p!itu. 婿はこの人だ。

クリ アダンチクニ クリ。k!u!ri adaNc!ikuni k!u!ri. これじゃなくてこれだ。

ベーヌ ユミ。be:nu jumi. うちの嫁だよ。

バー カネダ。ba: kaneda. わたしは金田だ。

バナメー ナーネー。banume: na:ne:. わたしは那根です。

クヌ トゥケイメ ダイ ヤッサル ムヌヨ。k!unu t!ukeime dai jaqsaru munujo. この時計は値段が安いものだ。

1. 1. 6 独立語

呼びかけの独立語に使用されることがある。

アツジェー アツジェー。aq「zje: aq「zje:. じいさん、じいさん。(かつて「トトばあさん」が来訪時よく使用していたという。語彙としては u「zi、sju:、sjo:ma が一般的である。)

1. 2 又格

又格名詞は主語と規定語に使用される。

1. 2. 1 主語

主語はハダカ格の名詞が使用されるのが基本のようであるが、標準語のノ格にあたる又格でもあらわれる。又格名詞は主節主語に使用され、動作や変化の主体(はじめの2例)や属性のもちぬし(あとの2例)をあらわす。ほかの用法については未確認。

バナ アシトゥ ウムー。ba「nu as!i「tu umu:. わたしはそう思う。

イヤリヌ キーダー。ijarinu ki:da:. 手紙が来たよ。

クリット クレー ザーヌ マシカ。クレー マシ。k!uriqto k!ure: za:「nu mas!ika. k!ure: mas!i. これとこれではどっちがいい。これがいい。

シダシヌ カイサ。sidasi「nu kaisa. 身なりがきれいだ。

従属節(はじめの3例)や規定語節(あとの2例)の主語にも使用される。

ウヌ ピトウヌ オルツカラ ナラシートーリスヨ。unu p!itunu oruqkara narasi:to:risujo. あの人がいらっしゃれば教えてくださいよ。

ウヌ ファース ブレッカラ ウヌ ファーツトゥ アシパダヌ。unu hw~a:「nu bureqkara unu hw~a:「tu as!i「pada「sunu. あの子がいたら、あの子と遊んだのに。

カジヌ フケラー キーヌパ ウティス。kazinu h!ukera:° ki:nu「pa u「ti「su. 風が吹

けば木の葉が落ちる。

アウンヌ ヨハル ムヌ auNnu joharu munu けんかの弱いやつ

ウムティヌ マロツマロ シル ピトゥ umutinu maroq?maro siru p!itu 顔の丸い人

1. 2. 2 規定語

手元の例はそれほどおおくないが、名詞をかざる規定語は基本的にヌ格名詞であらわされる。

イチバン ウイヌ シザ icibaN uinu si¹za いちばん上の兄

ベーヌ ユミ。be:nu jumi. うちの嫁だよ。

バー ファース ユミ。ba:hw[~]a:nu jumi. うちの子どもの嫁だよ。

キヌーヌ イユドゥ タカッチャーダ。k!inu:nu ijudu t!akaqcja:da. きのうの魚のほ
うが多かった。

キョーヌ カジ ツーサダル。kjo:nu kazi cu:sadaru. きょうの風は強い。

ドゥーヌ シマラドゥ キタ。du:nu simaradu k!ita. じぶんの島から来たよ。

2. とりたて形式のいくつかについて

とりたて形のうち主要なものをとりあげる。このうち、メおよびその融合形は意味的に標準語のハに相当し、ンおよびミンは標準語のモに相当する。

2. 1 メおよびその融合形によるとりたて

標準語のハのとりたてに対応する。意味用法の広がりについては今後の調査をまつ必要があるのだが、標準語ではハがあらわれやすい中立的な、時間にかかわらない用法では、標準語と比較するととりたてのないハダカ格が基本的であるようにみえる。

メが後接する規則的なかたちと、単語末母音とメとの融合形があるが、メが後接するばあい、単語によって単語末の母音が長音化するものがある。融合形になりうるのは短母音の i、u、o でおわる単語にかぎられるようである(oは1例のみ確認)が、aのばあいは長音化するという可能性がある。短母音 e でおわる単語は h!ute(ひたい)などのほかにはほとんどなく、融合の有無についても未確認である。

ピ p!i 火、ピメ p!ime、ペー pe: 火は

ミンチ miNc!i 目、ミンチメ miNc!ime、ミンチエー miNcje: 目は

ミーティ mi:ti 再来年、ミーティーメ mi:ti:me、ミーテー mi:te: 再来年は

トゥビユ tu¹bi?i]ju トビウオ、トゥビユメ tu¹bi?i]jume、トゥビユョー

tu「bi?i」jo: トビウオは

ヤマング jamaNgu いたずら(っこ)、ヤマングメ jamaNgume、ヤマンゴー jamaNgo: いたずら(っこ)は

タバ tabo タバコ、タバメ tabome、タバー tabo: タバコは

パトゥナ p!atu「na ハト、パトゥナメ p!atu「name ハトは

フテ h!ute ひたい、フテメ h!uteme ひたいは

人称代名詞のヌ格はそのままとりたて形になるが、これは標準語にはみられない現象である。

バナメー ングン。banume: NguN. わたしは行かない。

バノー ヌードウ シャー。bano: nu:du sja:. わたしはなにをしますか。

2. 2 ンおよびミンによるとりたて

標準語のモノとりたてに対応する。ただし、意味用法の広がりについては今後の調査をまつ必要がある。ンの後接が規則的だが、単語によってミンが後接するかたちをもつものもある。ンやミンが後接するばあい、単語末の長母音が短音化したり、短母音が長音化したりする例がある。

マチキ ma「c!iki 松の木、マチキン mac!ikiN 松の木も

パンキヤ paNkja わたしども、パンキャン paNkjaN わたしどもも

ミンチ miNc!i 目、ミンチン miNciN、ミンチミン miNc!imiN 目も

ナビ nabi ナベ、ナビン nabiN、ナビミン nabimiN ナベも

マーミ ma:mi 豆、マーミン ma:miN、マーミーミン ma:mi:miN 豆も

ピドー pi「do」: イルカ、ピドーン pido:N、ピドミン pidomiN イルカも

イーピャー i:「pja: 位牌、イーピャン i:「pjaN、イーピャーミン i:「pja:「mi」N 位牌も

人称代名詞のヌ格はそのままとりたて形になるが、これは標準語にはみられない現象である。

アツァ バナン キース。aca banuN ki:「su. あしたわたしも来ます。

バナミン スン。banumiN suN. わたしもします。

2. 3 ドウによるとりたて

琉球方言に広くみられる強調のドウ(<ゾ)による「係り結び」が、この方言にもある。ドウについては名詞だけでなく形容詞や動詞においても重要な働きをしているので、それについても簡単に説明をしておきたい。

手元のかぎられた資料をみるかぎり、意味的にハやモに対応するとりたては名詞に限定され、

動詞や形容詞のとりたてはすべてドウによってなされている。とくに形容詞においては、ドウ強調形をとらない連体形のばあいや、述語形容詞以外の部分にドウを使用した強調文のばあいをのぞくと、形容詞自体に強調辞ドウがとりこまれていて、語形の一部になっている。

なお、ドウは先行音節が無声化しているばあいその影響により無声化シトウとなることがある。

2. 3. 1 ドウによる名詞のとりたて形

ハダカ格主語

グーグードウ ンギル。gu:gu:「du」N「gi」ru. ニワトリゾ逃げるよ。

アイ ウマナ マーヤ(ママ)ドウ プ。ai umana ma:jadu bu. あ、あそこにネコゾいる。

ハダカ格直接補語

クァ ヌーヌ キドウ ウビガー。kwa nu:nu kidu ubiga:. ここになんの木ゾ植えるの。

テードウ ミチキオリヤー。te:「du mici!kiorja:. どの家ゾ探してるの。

ハダカ格状況語

クトウシトウ ガッコーッティ ペッタ。k!utus!itu gaqko:qti peqta. ことしゾ学校に入った。

クズドウ ガッコーッティ ペッタ。kuzudu gaqko:qti peqta. 去年ゾ学校に入った。

ヌ格主語

アボッシンヌドウ マシ。aboqsiNnudu masi. 青いのゾいい。

バナドウ キス。banudu k!isu. わたしがゾ着ます。

バンドウ タローッティ フシリ ヌマシタ。baNdu: taro:qti h!usiri numas!ita. わたしがゾ太郎に薬を飲ませた。

ナ格

カマナドウ アル。k!amanadu aru. あそこにゾあるよ。

イヤリ キスヌ ヤナーナドウ チケル。ijari kiqsunu jana:nadu cikeru. 手紙が来てるけど、家にゾおいてあるよ。

ラ格

ベーラドウ ミチ(ママ) キタ。be:radu mici k!ita. わが家からゾ持ってきたよ。

イリムティーラドウ キタ。irimuti:radu k!ita. 西表からゾ来た。

ハダカ名詞述語

ハダカ名詞はそのままで述語に使用されるが、とりたてられるとコンピュータとの分析形であらわれるようである。参考例にあげた未来テンスの文にははじめからコンピュータがあらわれているが、

未来テンスだからそうなのか、提示した標準語文による影響なのかは不明である。

クヌ ファー ミーチドゥ ナル。k!unu hw̃a: mi:c!idu naru. この子は3歳だ。

ヤイ ミーチ ナリス。jai] mi:c!i na[ri]su. 来年3歳になる。

クヌ ファー ミーチ。k!unu hw̃a: mi:c!i. この子は3歳だ。

バー パチジュードゥ ナル。ba: p!acizju:du naru. わたしは80歳だ。

バー パチジュー。ba: p!acizju:. わたしは80歳だ。

2. 3. 2 ドゥによる形容詞のとりたて形

形容詞の否定形がハとりたて形であらわれることのある標準語とちがって、この方言ではサ中止形+否定詞 mjaN(活用タイプ不明)という、とりたてのないかたちであらわれるようである。

アチクサ ミャン。ac!ikusa mjaN. 熱くない。(体温などがさがって)

ピレキサ ミャン。p!i!rek!isa mjaN. 冷たくない。ぬるい。

その一方で、～(サ)ドゥ+アル、～(シ)ドゥ+アルのようにドゥを語形にとりこんだ～(サ)ダ
ル、～(シ)ドゥル/トゥルというかたちが、ほとんど形容詞の基本形とっていい程度に使用さ
れる。あとの3例は形容詞にドゥをふくまないサ終止形、サアリ終止形、シアル終止形である。

オチキ カイサダル。oc!i!ki ka[isadaru. 天気がいい(きれいだ)。

オリキサダル。orik!isadaru. 気持ちいい。(木陰で風が吹いてきて)

クヌ トケイ カルサダル。k!u!nu t!okei k!arusadaru. この時計は軽い。

クヌ カペー ツソシドゥール。k!u!nu kabe: s!usoqsidu:ru. この紙は白い。

キュ ナン トゥリードゥル。kju nan t!u!ri:duru. きょうは波が静かだ。

シダシヌ カイサ。sidasi[nu kaisa. 身なりがきれいだ。

クヌ トケイ カルサイ。k!u!nu t!okei k!arusai. この時計は軽い。

ウリット クリット ウリドゥ ホピシル。uriqto k!u!riqto uridu hop!isiru. あれと
これとであれゾ黒い。

なお、連体形にドゥはあられない。

ウムッサル ヤマング umuqsaru jamaNgu おもしろいたずら

ツーサル ヤー cu:[saru ja: 頑丈な家、強い家

過去形においても、ドゥが形容詞述語にふくまれるばあい(はじめの例)とそうでないばあい(つ
ぎの例)とがありそうである。

マインタヌ チャ イシツァダーダ。maiNtanu cja is!icada:da. さっきのお茶は熱かった。

キヌーヌ イユドゥ タカッチャーダ。k!inu:nu ijudu t!akaqcja:da. きのうの魚ゾ多

かった。

2. 3. 3 ドウによる動詞のとりたて形

ノマナイ、ノンダのような総合形をとりたてるときに、ノミハシナイ、ノミサエシタのように分析形にする手つづきがあるが、おおくはみられない。

フェードウ ス。hwe:du su. 食べゾする。(=食べよう。意志の用法)

パー フェース。ba: hwe:su. わたしは食べる。

アスペクト形式のヲリ分析形はそのまま前要素をとりたてる。ほかの分析形については不明。

ミナー バッシドゥ ブ。mina: baqsidu bu. いま炊いてゾいるよ。

ピサンメ ニットゥ ブー。p!isaNme niqtu bu:. お昼は寝てゾいる。

ミナーマデ ヌミドゥ ブーナー。mina:made numidu bu:na:. いままで飲んでゾいるか。

動詞の非過去形には上記の～スや～ブ、～ルのような-u型のほかにン型のものがあるが、ン型のほうは動詞に直接ドウの強調をうけないようだし、ン型動詞以外の部分がドウ強調をうけた例もほとんどみられない(手元にははじめの1例があるのみ)。

バンドウー タローッティ フシリ ヌマスンドー。baN「du:」 taro:q「ti」 h!usiri numasuNdo:. わたしがゾ太郎に薬を飲ませるよ。

パー ドウシニ ウキルン。ba: dusini ukiruN. わたしは自分で起きるよ。

ケーラ オールンドー。ke:ra o:ruNdo:. みなさん行かれますよ。

シテイルに相当するアスペクト総合形では形容詞と同様にドウが語形のなかにとりこまれ、～(シ)ドウル/トゥルのかたちをとっている。

チキ イディドウル。c!iki ididuru. 月が出ている。

タハンヤラバン シードウル。ta?ha]NjarabaN si:duru. だれでも知っている。

ユキン アットウル。jukiN aqturu. 斧もある。

シタイ、シヤスイなどの派生形容詞もドウが語形のなかにとりこまれて～(サ)ダルのかたちをとる。もちろん、べつの箇所にドウがあるばあいや連体形ではドウのない語形になる(4例め)。

マチキ ウビッサダル。mac!iki ubiqsadaru. 松の木を植えたい。

パイサ フェッサダル。pai「sa hweqsadaru. はやく食べたい。

クリ チコーツカラ トゥノー バリヤッサダル。k!u!ri c!iko:q「ka」ra t!u!no: barijas!usa「da」ru. これを使ったら卵を割りやすいよ。

ウビッサル キー ムティ クー。ubiqsaru ki: muti ku:. 植えたい木を持ってこい。

形容詞と同様、動詞の過去形においても、ドウが語形にふくまれるばあい(はじめの2例)とそ

うでないばあい(あとの2例)とがありそうである。

モーヘー グーグー チカネードウダ。mo:he: gu:gu: c!ikane:du:da. むかしニワトリを飼っていた。

シタリー アバティドウダヨー。s!itari: abatidudajo:. さっきはあわてたよ。

クズドゥ ガッコウッティ ペッタ。kuzudu gaqko:qti peqta. 去年ゾ学校に入った。

バンヌ カチミダ。baNnu k!ac!imida. わたしがつかまえた。

動詞の過去形にはこのようなダ/タ型のほかにン型のものがあるが、ン型のものにはドウをふくむ語形がみあたらない。

ツシャ ムイキャン。s!isja muikjaN. 白髪が生えてきた。

グーグー ペーリヤン。gu:「gu:」 pe:「rja」N. ニワトリが入ったよ。

バンヌ カチミヤン。baNnu k!ac!imjaN. わたしがつかまえた。

2. 3. 4 副詞のドウによるとりたて形

例はすくないが副詞も強調の対象となる。形容詞はサ中止形が副詞化して強調の対象となる。

ミナドウ ツシェ ブ。minadu s!isje bu. いまゾ精米している。

ツーサドウ フキル。cu:sa「du h!u「ki」ru. (風が)強くゾ吹いている。

3. 人称代名詞

人称代名詞の全体像をしめすことはできないので、一人称代名詞とその周辺にしぼって概略をしめす。なお、二人称単数は喜界島などとおなじウラ、三人称単数は指示語のウレである。

一人称のバの系列は標準語のワの系列である。主語に使用されるいくつかの語形があるが、そのうちのバーが無標であるとみられる。複数に使用されるバハがワガに対応することを考えると、単数のバーはワガからの変化ではなく、ワの長音化とみるべきかもしれない。

3. 1 一人称単数

主語と規定後に使用される語形のみをあげる。ノ格に対応するヌ格のバナにもとりたて形のあることについてはすでにのべたとおりである。

バー ba: わたし(が、は、の)

バナ banu わたし(が、は、の)

バンヌ baNnu わたしが <ワノノ?

バナメー banu「me:」、バノー bano: わたしは

バナン banuN、バナミン banumiN わたしも

バナドゥ banudu、バンドゥー baNdu: わたしが <ワノゾ

3. 2 一人称複数

琉球諸方言にみられる一人称複数形における包含形(聞き手をふくむ)と排除形(聞き手をふくまない)の対立がこの方言にもある。基本的にはバハ～の系列が包含形、パンキヤが排除形である。バハ～の系列にはバハとバハダンとがあり、ともに主語や規定語に使用される。標準語のワガに対応するバハに対して、バハダンのほうはワガタ(チ)にかかわりをもつ語形とみられる。

バハ(ダン)は主として、ふるくからムラ共同体として絆のかたい祖納(s!u!ne:)地区の人同士で使用され、パンキヤは祖納地区以外の、たとえばすぐとなりの干立(h!utade)地区の人たちなどに対して使用されるが、石垣や沖縄など島外の人に対しては使用されない。

バハ(ダン) ウガン baha(daN) ugaN わたしたちの御嶽

バハダンヌ ウガン bahadaNnu ugaN わたしたちの御嶽(×バハヌ ウガン)

バハ(ダン)メ カシー サー。baha(daN)me k!asi: sa:. わたしたちはこうしよう。

パンキヤヌ ウガン paNkjanu ugaN わたしどもの御嶽(パンキヤ ウガンは未確認)

パンキヤ(メ) カシトウ ス。paNkja(me) k!as!itu su. わたしどもはこうする。

わが家：(バハ)ヤーとベー

バハ(ダン)とパンキヤの「わが家」版が(バハ)ヤーとベーである。「わが家」の人と話すかよその家の人と話すかで、(バハ)ヤーとベーとをつかいわける。

バハ ヤーラドゥ ムチ キタ。baha ja:radu mucik!ita. わが家から持ってきたよ。(どこから、とうちの子にきかれて)

ベーラドゥ ミチ(ママ) キタ。be:radu mici klita. わが家から持ってきたよ。(どこから、とよその子にきかれて)

バー ヤナナ ブリッキ アシプッカラ ヤッティ クー。ba: janana buriqki⁷ as!ipuqkara jaqti ku:. わたしは家にいるから、遊んだら家に来い。(うちの子に)

バー ベーナ ブリッキ アシプッカラ ベーッティ クー。ba: be:na buriqki as!ipuqkara be:qti ku:. わたしは家にいるから、遊んだら家に来い。(よその子に)

バハ ヤーナ オリダ ピトウ ドゥヌ ピトウリヤ。baha ja:na orida p!itu dunu p!iturja. うちに来られた人はどの人だい。(家族に)

ベーヌ ユミ。be:nu jumi. うちの嫁だよ。(よその人に)

アツァー ベーツティ オーリヨー。aca: be:qti o:rijo:. あしたはうちにいらっしゃい。(よその人に)

4. おわりに

不十分な資料からではあるが、この方言のいくつかの特徴や今後あきらかにすべき点があるていど提示することはできたように思う。前回の調査からはだいぶ間があいてしまったが、動詞や形容詞など他の品詞についても手持ちの資料を整理しなおし、調査を再開・継続していくことでこの地区の文法の全体像をあきらかにしたいと考える。

長時間にわたってこまかな点までていねいにご教示いただいた那根弘氏には、心よりお礼をもうしあげます。また、那根氏との自然談話の録音にご協力いただいた^{みやら ぜんきく}宮良全作氏(T.3(1914)年生れ)にもあわせてお礼をもうしあげます。(宮良氏は昨年お亡くなりになりました。感謝の気持ちとともにご冥福をお祈りいたします。)

注

- 1 命令形にはこのタイプのほかに相対的にやや下品な twja のタイプがある。ほかに、kui/kwja(漕げ)、nui/nwja(縫え・脱げ)、biri/birja(座れ)、idiri/idirja(出ろ)、clike:/clikja:(使え)。
- 2 終助辞には任意の jo/so:/do:/sa などのほかに、疑問文に義務的な ga/rja/na などがある。
- 3 逆接続形形でテンス対立をもつ。反実仮想文の述語におおく使用される。ほかに、ihuqsunu/ihjadaqsunu(行くのに/行ったのに)、as!ipuqsunu/as!ipadasunu(遊ぶのに/遊んだのに)。形容詞(らしきもの)では misasunu/misadasunu(いいのに/よかったのに)など。
- 4 一般的な仮定をあらわす条件形。テンス対立はない。反実仮想文の条件節に使用されることもある。形容詞では tu:saqkara(遠ければ)、umuqsakara(おもしろかったら)など。
- 5 標準語では直接対象をあらわすヲ格の用法に相当する。ニ格など間接補語の用法は未確認。
- 6 仮定条件形。テンス対立はない。反実仮想文の条件節におおく使用される。ほかに、ihera/ihja:(行けば)、hwe:ra/hwja:(食べれば)など。語形的に対応する形容詞は未確認だが、意味的に対応しそうな語形には k!a!rusaso:(軽ければ)、orik!isaso:(心地よければ)がある。
- 7 テンス対立をもつ接続形とみられるが、過去形の存在は未確認。ほかに、numana(ri)ki(飲まないから)がある。形容詞では tu:sariki(遠いから)があるが、これも過去形は未確認。

参考文献

- 大野 眞男 1988 「西表租納方言における音対応と音変化」『琉球の方言』13 沖縄文化研究所
加治工 真市 1984 「八重山方言概説」『講座方言学 10 沖縄・奄美の方言』国書刊行会
久野 眞 1988 「西表島租納方言の音韻体系」『琉球の方言』13 沖縄文化研究所
星 勲 1982 『西表島の村落と方言』友古堂書店